

吉田璋也の民藝

特別展 柳宗悦との出会いから百年

— 美の王国を夢見て —

2020年 9月5日[土]

2021年 3月7日[日]

開館時間：午前10時～午後5時

入館料：一般500円 / 大学生300円

鳥取市民(先着1000名)・高校生以下 無料

鳥取市「地域でがんばる民間ミュージアム等応援事業」により
鳥取市民の方は先着1000名まで入館無料となります。

休館日：水曜日(祝日の場合は翌日)

12月30日-1月3日

旧吉田医院特別公開

2020年 9月5日[土]

- 11月8日[日]

入場料：鳥取民藝美術館入館券にて無料入場
開館時間・休館日は鳥取民藝美術館と同じです

鳥取民藝美術館

〒680-0831 鳥取市栄町 651

TEL：0857-26-2367

E-mail：mingei@joy.ocn.ne.jp

URL：https://mingei.exblog.jp/

facebook：https://www.facebook.com/tottoritakumi/

主催：鳥取県・公益財団法人 鳥取民藝美術館

photo：©Akira Shiraoka, ©Hirokichi Ikeuchi

鳥取民藝美術館

令和2年度 鳥取県・吉田璋也の民藝魅力発信事業

鳥取県は、守り伝えられてきた文化財とその延長上にある様々な文化資源を
あわせ、とっとり文化遺産として魅力の発掘、磨き上げ、発信を行っています。

特別展 柳宗悦との出会いから百年

吉田璋也の民藝

— 美の王国を夢見て —

本特別展は吉田璋也(1898-1972)が柳宗悦と出会ってから百年を記念して、吉田がたどった民藝の道を回顧し、その新作民藝の成果を展示するものである。吉田が目指した民藝運動は、生活を美しくすることであり、「民藝運動は美による社会改革運動だ」という強い信念で貫かれていた。その生涯は、美の王国を夢見つづけた一生だった。

第1章 『白樺』から「民藝」へ

今から百年前、1920(大正9)年、医学生だった吉田璋也は柳宗悦を我孫子に訪ね、生涯師事する。バーナード・リーチのエッチング『天壇』はそのときの記念の作品で、生涯これを大切にしていた。

1. 『白樺』大正9年5月号
2. バーナード・リーチ『天壇』大正9年購入
3. 新潟医学専門学校時代の同人誌『アダム』(大正9年2月)
4. 木喰仏は河井寛次郎に相談して入手(鳥取民藝美術館蔵)

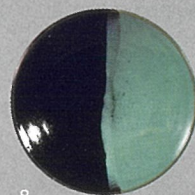


4

第2章 「新作民藝運動」の確立

1926(大正15)年、吉田は民藝運動が起こるとこれに共鳴し、1931(昭和6)年、郷里の鳥取で、新たな民藝をつくる新作民藝運動を始め、企画・意匠・生産・流通・販売の体制を確立した。

5. 牛ノ戸焼の初窯出・柳宗悦、小林秀晴と(昭和6年5月11日撮影)
6. たくみ工芸店(鳥取・昭和7年)
7. たくみ(東京西銀座・昭和8年)
8. 吉田の初期代表作・牛ノ戸焼『緑黒釉掛分』(日本民藝館蔵)



8

第3章 中国の「新作民藝運動」

1938(昭和13)年、中国に軍医として応召、除隊後も北京に居を構え中国の民衆の工芸を調査研究し、中国人のための新作民藝運動を起こし、企画から販売までその体制を確立した。

9. 北京で新作の上着を着て
10. 北京の自宅で家族との食事風景
11. 「華北生活工芸店」(北京・昭和18年)
12. 「民藝の木」(『月刊民藝』昭和14年)「たくみ工芸店」の存在の大きさを示す



12

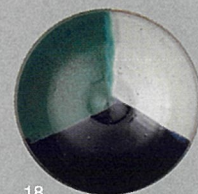
第4章 「新作民藝運動」の展開

1945(昭和20)年、京都に引揚げ、1947(昭和22)年に鳥取で新作民藝運動を再開する。1949(昭和24)年、鳥取民藝美術館を創設し、工人集団を鳥取民藝協団と位置づけ更に鳥取民藝協会を再編した。1953(昭和28)年頃より10年間は、特に新作のデザインに注力した時期だった。鳥取民藝の定番となるデザインはほぼこの時期に集中する。吉田は自らの立場を「民藝のプロデューサー」とした。その資格を「①美しいものをとり上げる眼 ②自分でもデザインできる力 ③製作上の技術に多くの協力者を得られる力 ④繰り返して製作させる力、即ち作品を売りさばる力」とした。鳥取民藝美術館、たくみ工芸店、童子地藏堂などの施設を充実させ、1962(昭和37)年、生活的美術館としてたくみ割烹店を開店した。

13. 第1期鳥取民藝美術館(昭和24年)
14. (左)たくみ工芸店(昭和25年)、(右)第3期鳥取民藝美術館(昭和36年)
15. 「牛肉のすき鍋」(しゃぶしゃぶ)は、戦後まもなく北京の羊肉の吉田料理を吉田が京都十二段家で指導し、日本風に翻訳した料理
16. たくみ割烹店(昭和37年)
17. 童子地藏堂(昭和36年。昭和52年改築)
18. 牛ノ戸焼三方掛皿(昭和32年頃)



15



18

第5章 鳥取の文化財保護活動

1931(昭和6)年、新作民藝運動を始めると同時に、箕浦家武家門の保存に尽力し移築保存している。戦後は鳥取文化財協会を設立し米原稔・川上貞夫らとともに、文化財の保護活動に取り組んだ。

19. 箕浦家武家門(昭和12年移築保存)
20. 鳥取砂丘(昭和30年国天然記念物指定)バーナード・リーチ画
21. 仁風閣(没後、昭和48年国重要文化財指定)
22. 鳥取民藝美術館別館・湖山池阿弥陀堂(昭和39年)



22

関連事業

● 旧吉田医院特別公開

期間: 2020年9月5日[土]-11月8日[日]
場所: 鳥取市瓦町504(鳥取民藝美術館向い)
入場料: 鳥取民藝美術館入館券にて無料入場

● 3Dデジタルミュージアム・ウォークスルー

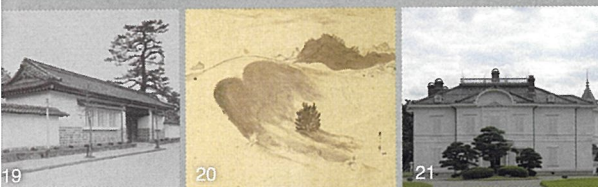
鳥取民藝美術館および旧吉田医院の3D・デジタルミュージアム・ウォークスルー公開
期間: 2020年9月19日[土]より公開予定
URL: <https://takumikogei.theshop.jp/blog/2020/07/27/182816>



QRコード



鳥取民藝美術館



旧吉田医院

1952(昭和27)年の鳥取大火は鳥取市街地の半分以上を焼き尽くす大火災となり、吉田の医院も焼失した。早速再建に取り組み、木造2階建て4層の特異な断面構造の医院を自ら設計し現場で指示して完成させた。

23. 旧吉田医院正面階段 24. 診療衣姿の吉田璋也 25. 耳鼻咽喉科診察室内